

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「おれの幼馴染がゲスなんだが」

テーマ：「菩薩顔なのに、ゲスな美少女」

キャラクター

55

ストーリー

35

テーマ(設定)

50

文章力

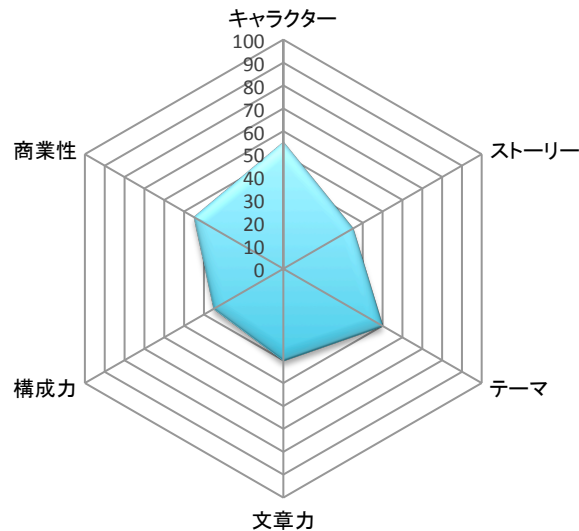
40

構成力

35

商業性

45



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・美しいのにゲスという発想は確かに簡潔に伝わるものを感じた。
 ・長編作品の第1章だけ読ませてもらったという印象が強かった。料理番組でしっかりと野菜やお肉といった素材だけ紹介されて、そのま何もせず終了といった感じか。まじもこのキャラ自体は最高に立っているんで、このキャラが生かされたストーリーラインが登場しないまま、出て来るだけ出て来て終わりという筋は非常に残念。
 (例えば、序盤で金貨としてゲスな面を見せるが、中盤で金貨として大きく失敗しても自身がかんりのピンチに追いやりられ、終盤でそれを頑張っ乗り越えたといいストーリーならかなり面白くなっただろうと感じた。努力家がゲスな面を見せる話は面白くないが、ゲスが努力家な面を見せていく話はなんたんだで読み手を惹き付けられるので、まさにこの作品で活かせるテクニックとはならないか?)
 ・最近では闇金ウシジマくんといった闇金融をネタに扱う商業作品も増えて来ており、この作品も商業的にも決して評価は低くない。しかしこの手のネタを簡単に使うとネガティブな捉え方をされる方もいるため、できればなにもこが芽えない少女からやり手の美少女への変貌を遂げたのか、理由かもしくはいっそのこと過去編などがあるればより説得力と物語性に深さが出たのではないかと考える。

合計加点ポイント 0

総得点: 260 / 600

B方式総合得点: 11267 点